

北海道福祉サービス第三者評価結果公表事項

①第三者評価機関名

有限会社 NAVIRE
-------------

②事業者情報

名称： 社会福祉法人 帯広太陽福祉会	種別： 救護施設
代表者氏名： 理事長 高橋 勝坦	定員(利用人数)： 93 名
所在地： 〒080-2334 帯広市上帯広町西1線76番地2	TEL 0155-64-5570

③事業者の基本調査内容

別紙「基本調査票」のとおり

④総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>○ 「自己評価システムの導入」・・・毎年、検討委員会により救護施設サービス評価基準の自己評価システムを導入して「人権への配慮」、「利用者に応じた個別支援プログラム」、「日常生活支援サービス」、「生活環境の整備」、「地域との連携」、「管理者及び職員の研修・資質の向上」、「危機管理及び緊急時への対応」と7分類322項目にわたって自己評価を行い達成度の低い項目については各担当者や会議に検証、課題の把握、改善と次に向かって取組を行い利用者への生活支援サービスの充実と、利用者の自立を目指すように促しており、体制充実に向けてのシステムの構築が出来ている。</p> <p>○ 「きめ細かな情報収集」・・・基本情報、利用者の希望、要望を5つのカテゴリーで聞き、さらに家族からの要望も取り入れている。アセスメントは10項目に沿って情報を収集、それをもとにニーズを整理して支援計画を立て、実行しその後モニタリングを行い修正して質の高いサービスに努めている。職員全体が利用者に寄り添い、利用者の思いがより多く反映され、利用者の自己実現に近づける支援計画策定になっている。</p> <p>○ 「通過型施設への展開における個別生活支援システムの導入」・・・「自己実現の支援」「安心して暮らせる生活環境の提供」の理念のもと個別ニーズに対する支援、グループ及び集団活動に対する支援を目指している。平成12年介護保険法、16年障害者自立支援法の施行に伴い、生活保護法の見直しも進み、通過型施設として機能を構築する必要性を受けて利用者の「自立」が求められており、当事業所も、利用者個別支援計画を基に個々の希望、要望を重視する中でこれからの方向を、介助、看護を中心にサービス提供し生活支援を行う「介助・介護型」、寮内での自立を目指し介護支援及び生活支援を行う「東明寮利用型」、地域での生活を目指し生活支援及び就労体験支援を行う「地域生活支援型」と捉え平成19年から居宅生活体験を開始して通過型施設から地域生活移行へと取組んでいる。特に地域生活支援については昨年度から実際の地域に出て生活をし、農業就労体験をして更に生活力の向上に努めよりよいあり方を模索して利用者支援の向上を目指している。</p>
---

◇改善を求められる点

○ 「苦情解決システム」・・・毎日の人間関係での苦情が多い中、苦情窓口は支援課長となっており、状況を把握できない利用者は、直接施設長に話を持って行くケースがある。今後は利用者がどの職員にでも相談が出来、解決できるシステム作りを行い、毎日の生活がより快適に安心して生活できるような苦情解決システムの構築が求められる。

○ 「記録方法の均一と明瞭化へ」・・・施設内にネットワークシステムを構築し情報を共有化できる体制ができたが、日誌、個別記録類に情報のバラつきがあり均一化されていない部分が見られる。又各書式の記録方法は、煩雑なところがあり工夫改善を望む。

○ 「地域との積極的なかわり」・・・平成15年に移転したが地域行事への参加は大正ふれあい祭りや、サマーフェスティバル参加、地域の方の当事業所行事への参加は運動会、文化祭にとまっている。災害避難訓練時には地域の方が見学しているが、訓練には参加していない。地域の役割体制が確立された避難訓練や、福祉関係の研修会の開催、さらに日常的な交流(草取り、窓拭き、除雪ボランティア)のもとに施設の持つ社会資源を地域に開放し役立て地域に誘致された施設としての積極的な交流を期待する。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

帯広市から当法人に経営の移譲を受けて10年が経過致しました。この間、利用者一人ひとりを大切にしたい支援に心がけ、救護施設サービス評価基準を活用し、サービスの質の向上に取り組んで参りました。自己評価の積み重ねにより、ある程度は目的を達成することができましたが、職員による評価のため、評価の甘さやバラつき、実施年度による評価結果の違いが見られていたのも事実でした。

この度の福祉サービス第三者評価を受審するにあたっては、私たちのこれまでの実践の積み重ねに対して、第三者の目で客観的に見て頂き、導き出された評価及び課題について、今後の事業展開の材料とさせて頂きたいと考えているものです。

総評の中で、①継続的な自己評価の実施による評価と改善への取り組み②利用者一人ひとりの希望要望を重視した個別支援への取り組み③三つのタイプに分けて支援を行う中での「地域生活支援(通過型の機能)」への取り組みなどに対して、一定程度の評価を頂いたことは大変励みになり、今後も東明寮の強みとして取り組んで参りたいと考えております。

一方で、①利用者の誰もが日々の相談や意見を述べやすい環境の整備②職員の記録方法の統一と各文書の取扱いの煩雑な側面の改善③地域から誘致をされて移転をしており様々な支援を受けている中で、地域の社会資源として研修会の開催や日常的な交流の実施、また、災害時を想定した地域住民との共同での訓練の開催の必要性④安全・安心な生活の構築に向けた丁寧な環境の整備などについて課題として指摘を頂きました。それぞれの課題につきましては、改善計画を立てて具体的に取り組んで参ります。

今後におきましては、利用者や地域住民、ご家族や関係機関とのより丁寧な関係の構築に努め、サービスの質の向上に努めて参りたいと思っております。

⑥評価対象項目に対する評価結果及びコメント

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり